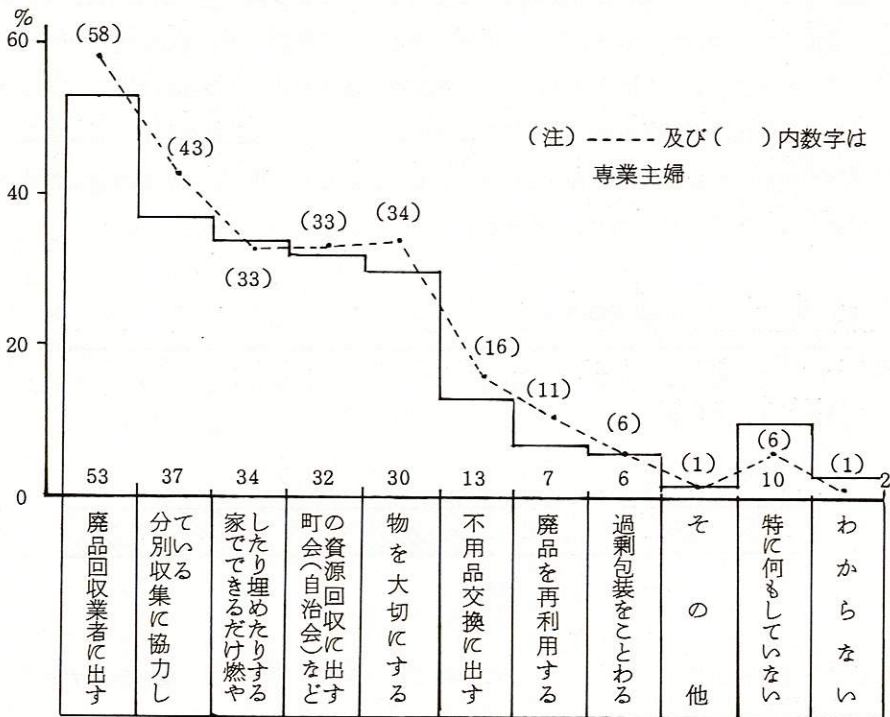


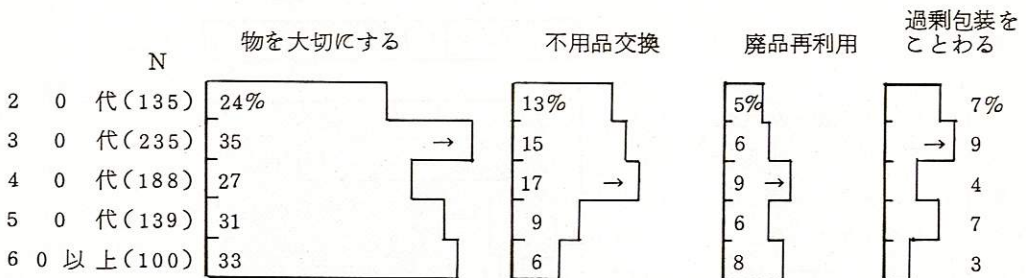
5. 市 民 生 活

5-1. ゴミ減量の工夫 …… 「廃品回収業者に出す」53%

15. [リスト11呈示] 次に、ゴミについて伺いますが、あなたの家では、ゴミを少なくするために何か工夫をしていますか。工夫していましたら、いくつでもあげてください。(M.A.)



(図5-1) 年齢別にみた「ゴミ減量の工夫」



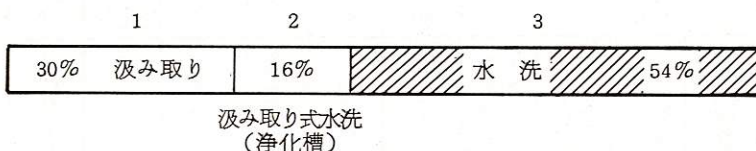
ゴミ減量の工夫では、「廃品回収業者に出す」(53%)ことや「町会などの資源回収に出す」(32%)など業者を通ずる再利用が一番多い。次に多いのは市のゴミ収集に対して「分別収集に協力している」(37%)や、「家で、できるだけ燃やしたり埋めたりする」(34%)などの協力である。注目されるのは、これら省資源の基本的態度として「物を大切に使う」が30%あげられたことである。この考え方は、「消費は美德」と言われた高度成長期時代にはなかった態度であり、市民の生活意識の今後を予測するうえで、重要な指標

となるであろう。かつて、ゴミの問題は家庭の問題であり、主婦の領域のこととして考えられていたが、現在では市民全体の問題として自覚され始めているようである。専業主婦の回答をとり出してみると、全般に市民平均のレベルを上回っているが、極端な差ではなく、世帯全員がゴミ問題を自分たちの問題として意識し始めていることを示している。

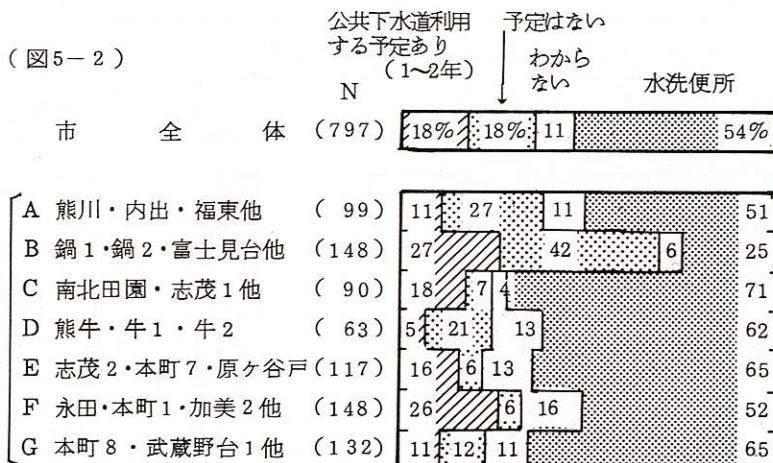
戦前の社会では「物を大切にすること」は大事な社会的規範であった。御飯粒ひとつでも落したり、粗末にすることは悪いこととされていた。この規範で育てられたいまの50歳以上の高年層は、「物を大切にすること」などの生活態度が身についていると言われている。そこで、年齢別に省資源行動を分析してみた。図5-1をみると、「物を大切にすること」は30代、「不用品交換」は40代、「廃品再利用」も40代、「過剰包装をことわる」は30代に実行者が多く、高年層に多いだろうという仮説は検証されなかった。このことは、省資源の思想が戦前の社会的規範の延長としてではなく、新しい思想、新しい感覚で理解され、承認され、実行されていることを示すものではなからうか。

5-2. 水洗便所 …… 普及率54%

16. [リスト12呈示] 市では、快適な生活環境整備のために、公共下水道事業を進めています。お宅のトイレは次のうちどれですか。

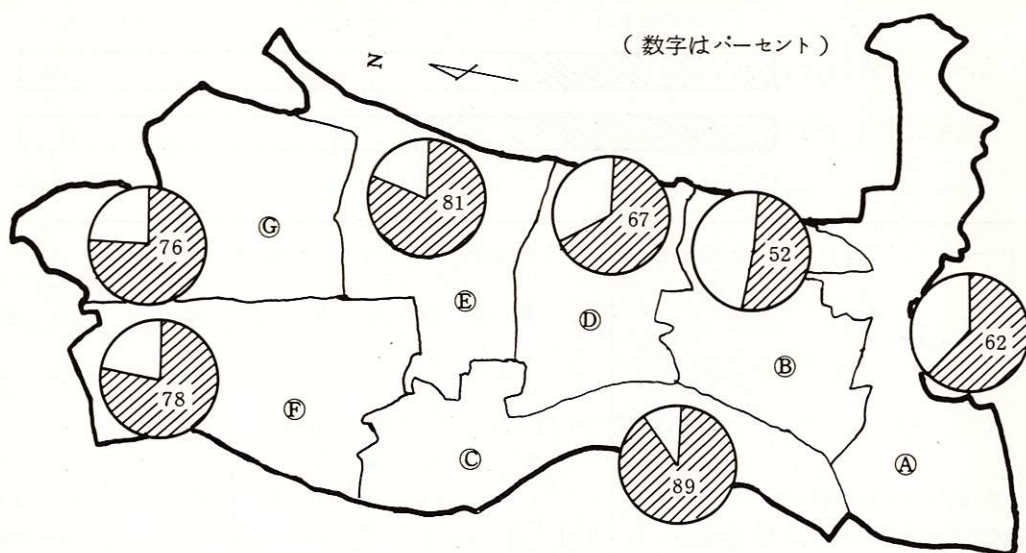


16-1. (1、2と答えた人に) それでは、この1～2年のうちに、公共下水道を利用する予定(計画)はありますか。



福生市は昭和60年度を目標に、公共下水道管敷設100パーセントの普及を目指しているが、現在での水洗化普及率は54%である。この場合の水洗化率とは、20歳以上市民100人のうち54人が自宅の便所が水洗だということであり、厳密に言って世帯単位の普及率を示して100世帯のうち54世帯が水洗だ

(図5-3) 1～2年後の予想水洗化率

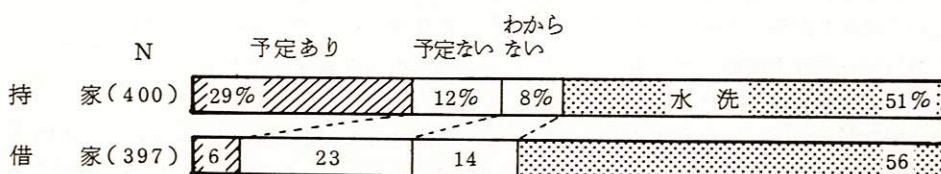


ということではない。

さて、のこり46%の未水洗者は30%が汲み取り便所、16%が浄化槽式水洗便所である。地域別にみると(図5-2)、水洗化普及がすすんでいるのはCブロック(南北田園・志茂1他)の7割(71%)であり、一方、遅れているのはBブロック(鍋1・鍋2・富士見台他)の25%であるが、下水道本管の埋設が57年度末となるために、都営住宅地域が未普及となり、水洗化率が低い。他ブロックはすべて5割以上の普及となっている。

水洗化の希望(1～2年内)は未水洗者46%のうち18%が「利用する」と答えているが、のこり18%は「予定はない」、11%が「わからない」としている。この利用希望者を現在の水洗使用者に上乗せして地域別に計算したのが、図5-3の「1～2年後の予想水洗化率」である。水洗化が7割を超えると予想される地域はCブロック(南北田園・志茂1他)(89%)、Eブロック(志茂2・本町7・原ヶ谷戸)(81%)、Fブロック(永田・本町1・加美2他)(78%)、Gブロック(本町8・武蔵野台1他)(76%)など市の北部地域および西部地域である。水洗化意向は(図5-4)当然持家居住者に多いが、持家居住者のうち49%が未水洗であるが、そのうち29%が「予定あり」と答えている。また、汲み取り・浄化槽式別で見ると、水洗化意向は浄化槽式水洗の44%に対して汲み取り便所35%と下回っている(図5-5)。

(図5-4) 持家・借家別にみた「水洗化意向」



(図5-5) 汲み取り・浄化槽別にみた「水洗化意向」

N	予定あり	予定はない	わからない
汲み取り便所(237)	35%	44%	21%
浄化槽式水洗(131)	44	28	28

16-2. (「予定はない」と答えた人に) その理由は何んですか。(M.A.)

(表5-1)	市 全 体	A ブ ロ ック	B "	C "	D "	E "	F "	G "	持 家	借 家	汲 み 取 り	浄 化 槽
N	(797)	(99)	(148)	(90)	(63)	(117)	(148)	(132)	(400)	(397)	(237)	(131)
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
(水洗化の予定はない)	18	27	42	7	21	6	6	12	12	23	44	28
近くに下水道管が入っていないから...	6	16	14	4	3	3	—	1	8	4	11	16
資金の関係から	1	3	1	—	2	1	1	2	2	1	3	3
改築の考えがあるから	1	3	—	1	—	—	—	—	1	—	2	—
家主の考えだから(借家だから) ...	9	4	24	1	14	3	4	9	—	18	27	6
汲み取り料がただだから	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
転居するかも知れないから	0	—	1	—	2	—	1	—	0	1	1	1
そ の 他	1	1	2	—	—	—	—	1	1	1	1	1
(回答計)	18	27	42	7	21	6	6	12	12	23	44	28

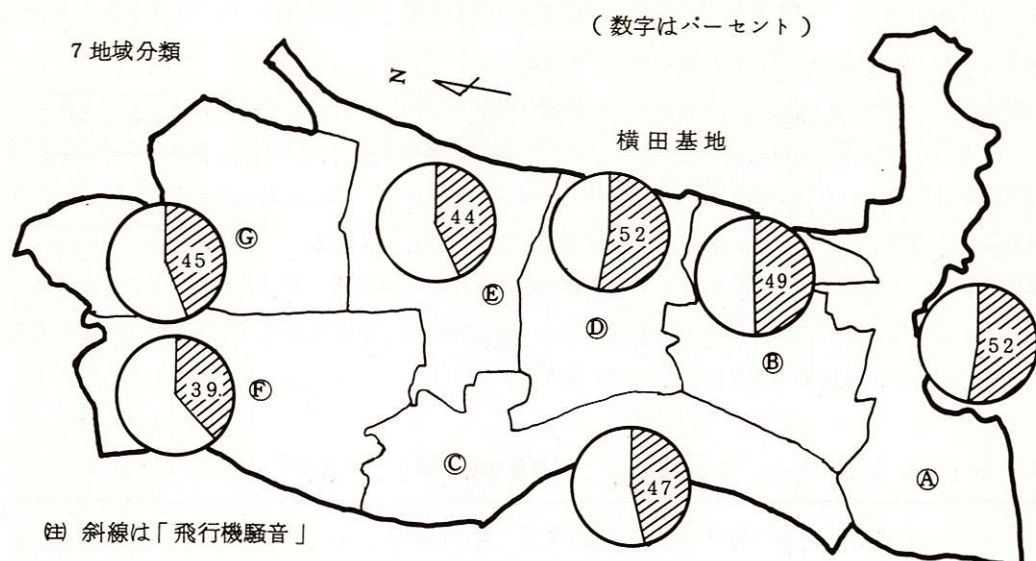
水洗化予定のない18%の理由は、その半数(9%)が「家主の考えだから(借家だから)」をあげており、6%は「近くに下水道管が入っていないから」をあげている。「家主の考えだから」が多いのはBブロック(鍋1・鍋2・富士見台他)(24%)が多く、汲み取り世帯居住者(27%)にも多い。「近くに下水道管が入っていない」が多いのはAブロック(熊川・内出・福東他)(16%)とBブロック(鍋1・鍋2・富士見台他)(14%)が比較的多い(表5-1)。

5-3. 公 害 飛行機騒音46%

17. [リスト13呈示] 日常、あなたが生活している周辺で、次のような公害でお困りになっているものがありましたら、ひとつだけあげてください。

	53年 %	57年 %		53年 %	57年 %
自動車の騒音や振動	24	23	日照公害	3	2
工場の騒音や振動	2	1	光化学スモッグ	0	0
工事現場の騒音や振動	1	1	近所からの騒音	*	3
自動車の排気ガス	3	2	そ の 他	6	4
飛行機の騒音	24	46	特に困ったことはない	37	18
工場などの排水や悪臭	2	1			

(図5-6) 地域別にみた「飛行機騒音の公害」



日常困っている公害は「飛行機騒音」が前回(53年)調査の24%から一挙に46%と倍増した。一方、「自動車の騒音や振動」は前回(53年)調査(24%)と変化なく23%であった。他の公害は、今回新設の「近所からの騒音」の3%がある程度で、とくに変わったものはない。

「飛行機騒音」はAブロック(熊川・内出・福東他)(52%)、Bブロック(鍋1・鍋2・富士見台他)

(表5-2) 属性別にみた「自動車・飛行機騒音の公害」

		N	自動車 騒音 %	飛行機 騒音 %			N	自動車 騒音 %	飛行機 騒音 %
男女	男性	(410)	25	48	独身期		(90)	16	48
	女性	(387)	20	44	家族形成期		(164)	23	56
20代	20代	(135)	18	56	家族成長前期		(176)	23	51
	30代	(235)	19	51	家族成長後期		(83)	30	36
	40代	(188)	27	45	家族成熟期		(154)	24	36
	50代	(139)	28	33	老齡期		(43)	21	40
	60歳以上	(100)	21	40	老人世帯		(33)	9	46
					自営者		(128)	26	40
生まれたときから	20~24歳	(46)	22	48	事務職		(241)	24	46
	35~歳	(57)	19	37	労務職		(197)	24	51
(転入者)	昭和29年以前	(97)	29	33	専業主婦		(163)	16	48
	" 30~39年	(124)	23	39	無職		(68)	21	38
	" 40~49年	(207)	26	47					
	" 50~54年	(182)	18	56					
	" 55年以降	(84)	18	52					

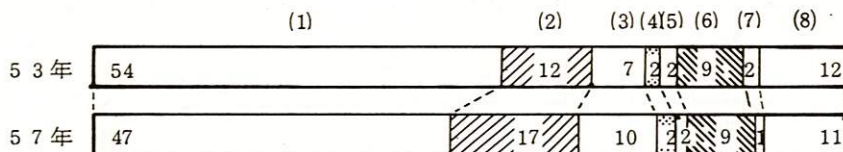
(49%)、Dブロック(熊牛・牛1・牛2)(52%)など横田基地への離着陸コースに近い地域が多くあげられており(図5-6)、「自動車騒音・振動」はGブロック(本町8・武蔵野台1他)(29%)と団地ブロック(30%)に多く、3割に近い率となっている。

自動車公害と飛行機公害の被害者層が違っている点は注目される(表5-2)。自動車騒音は40・50代の壮年層、ライフステージの家族成長後期(第一子・高校大学生)、昭和20~40代の転入者などに多いのに対して、飛行機騒音は20・30代の若年層、ライフステージの家族形成期、家族成長前期までの段階、昭和50年代の最近転入者に多い。つまり、若い層は飛行機、中年層は自動車に分岐し、居住歴の浅い層は飛行機、長い層は自動車に分岐している。乳幼児や小・中学生のいる世帯は飛行機、高校生・大学生のいる世帯は自動車に分岐するのである。これらの傾向が前回(53年)調査においてもほぼ共通してみられたことを考えると、公害被害に心理的な側面のあることは否定できない。

5-4. 保健や医療 …… 53年調査より「救急病院の拡充」が増加

18. [リスト14呈示] 保健や医療について伺います。あなたが特に充実してほしいと思うものを、ひとつあげてください。

- | | |
|----------------|--------------------|
| (1) 夜間や休日診療の充実 | (5) 母子検診や育児健康相談の充実 |
| (2) 救急病院の拡充 | (6) 主婦に対する一般検診の充実 |
| (3) 成人病検診の充実 | (7) その他 |
| (4) 衛生教育の充実 | (8) 特になし |



(数字はパーセント)

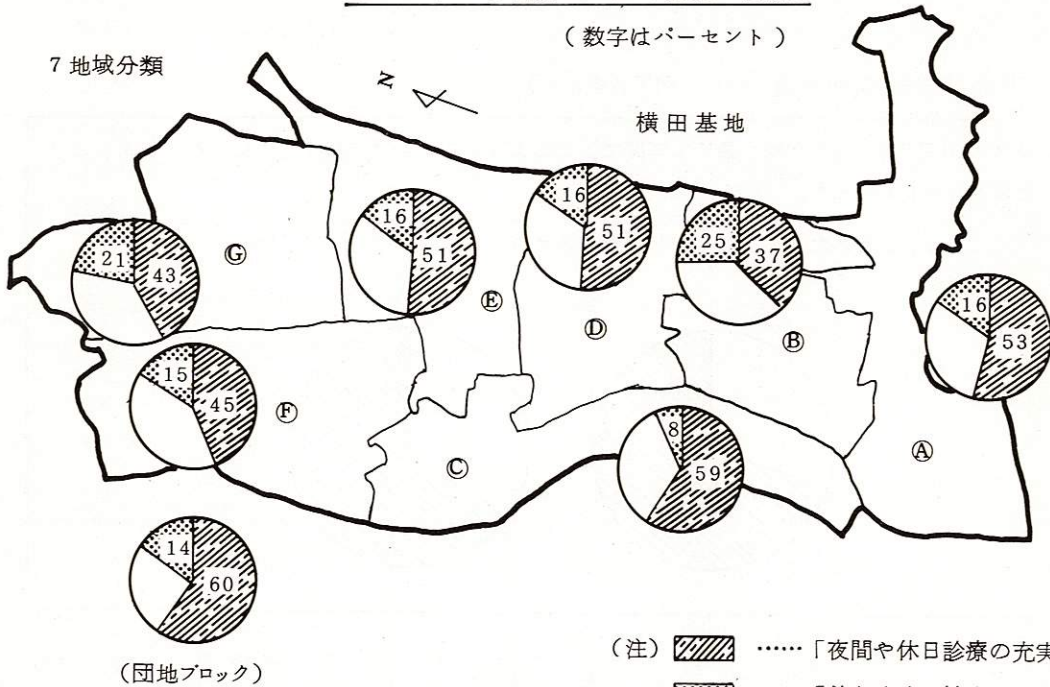
保健・医療についての要望は前回(53年)同様、「夜間・休日診療の充実」(47%)に集中しているが、前回に比して「夜間・休日診療」が7%減少した代り、2位の「救急病院の拡充」(17%)が5%増加しており、診療体制の整備に伴って、市民ニーズは充実された病院などへ移行し始めたようである。

地域別にみると(図5-7)、「夜間・休日診療」はCブロック(南北田園・志茂1他)(59%)と団地ブロック(60%)、次いでAブロック(熊川・内出・福東他)(53%)が多い。この理由としては、これら地域がライフステージの家族形成期(第一子・就学前)と家族成長前期(第一子・義務教育期)とがとくに多く、乳幼児や学童などの急病による医療ニーズの多い地域であることが考えられる。(図5-8)の実線部分は「夜間・休日診療」のニーズであり、斜線の棒グラフは、地域別の家族形成期比率と家族成長前期比率との和をあらわしている。この和の多い地域は「夜間・休日診療」のニーズも多いことを示している。

(図5-7) 地域別にみた「保健・医療」

(数字はパーセント)

7 地域分類



(注) 斜線 「夜間や休日診療の充実」

点線 「救急病院の拡充」

(図5-8) 地域別にみた「夜間・休日診療ニーズとライフステージ」

